

令和元年9月25日
観光局観光政策課

三重県観光振興基本計画年次報告（平成30年度）について

みえの観光振興に関する条例（平成23年10月20日三重県条例第34号）第21条の規定に基づき、三重県観光振興基本計画（以下、「基本計画」という。）に基づく施策の実施状況等について、平成30年度分を年次報告として取りまとめました。

1 三重県観光振興基本計画の目標達成状況

平成30年の観光消費額は、4年連続で増加し、神宮式年遷宮のあった平成25年に迫る過去2番目の5,338億円となりました。また、観光客満足度（「大変満足」の割合）は、過去最高となる29.9%を記録し、観光の産業化に向けた取組が着実に実を結びつつあります。

目標項目	平成28年度 実績値	平成29年度 実績値	平成30年度 実績値	令和元年度 目標値
① 観光消費額（年）	4,919億円	5,273億円	5,338億円	5,000億円以上
② 観光客満足度（年度）	26.7%	18.5%	29.9%	25.5%
③ 県内の延べ宿泊者数（年）	930万人	832万人	890万人	1,000万人
④ 県内の外国人延べ宿泊者数（年）	351,870人	334,230人	340,580人	450,000人
⑤ 国際会議の開催件数（年累計）	17件	25件	41件	20件

2 平成30年度の主な取組状況

（1）観光の産業化のさらなる推進戦略

- ・平成30年7月に三重県観光連盟がDMO法人に登録されました。平成31年3月には、相差海女文化運営協議会がDMO法人に、伊勢志摩観光コンベンション機構、松阪市観光協会がDMO候補法人に、それぞれ登録されました。
- ・「みえ食旅パスポート」の最終年度として、プレゼントバージョンアップキャンペーンやインターハイ版パスポートの発給等に取り組んだ結果、3年間累計で約53万部を発給し、観光客データの蓄積や多数のリピーターの獲得、県内のネットワーク構築につなげることができました。
- ・県、市町、関係団体等が地域一体となって熊野古道世界遺産登録15周年を盛り上げていくため、平成30年12月に県と伊勢路沿線10市町で構成する実行委員会を立ち上げ、事業計画を作成しました。
- ・伊勢志摩国立公園の世界水準のナショナルパーク化に向けて、「伊勢志摩国立公園ステップアッププログラム2020」に基づき、伊勢志摩国立公園協会と連携し、表彰制度創設等に取り組むとともに、ビューポイントにおいて、展望テラスの整備や多言語化案内板の設置等を行いました。
- ・北海道の名づけ親である松浦武四郎の生誕200年を記念し、総合博物館（MieMu）において、企画展「幕末維新を生きた旅の巨人 松浦武四郎」を9月から11月に開催す

- るとともに、航空事業者等と連携し旅行商品の造成等、北海道との相互送客に取り組みました。
- ・宿泊施設の働き方改革を進めるため、経営層を対象に研修会を7回開催するとともに、2地域（菰野町、鳥羽市）の宿泊施設にアドバイザーを派遣し、課題解決に向けた支援を行いました。
 - ・地域活性化雇用創造プロジェクトでは、食や観光等の分野における地域の産業政策と一体となった雇用機会の拡大や求職者の能力開発・人材育成等に取り組むことで雇用の創出に取り組みました。
 - ・県内食関連産業の将来を担う人材を育成するため、産学官で構成される「みえ食の“人材”育成推進会議」において、食関連産業が求める人材像について検討を深めるとともに、高度人材を育成するプラットフォームの設置について検討を進めました。
 - ・子どもたちが、地域のよさや郷土の豊かな自然、歴史、文化について、誇りをもって語ることができる力を身につけられるよう、地域での活動や郷土のよさなどについて発信する「中学生からの提案・発信」及び「郷土三重を英語で発信！～ワン・ペーパー・コンテスト～」を実施し、60校922作品の応募がありました。
 - ・県内14の高等教育機関と県で構成する「高等教育コンソーシアムみえ」で食と観光をテーマとした課題解決型科目として「三重を知る」共同授業を実施し、24名が受講しました。
 - ・「ええとこやんか三重移住相談センター」に就職相談アドバイザーを配置するとともに、U・Iターン就職セミナーを活用し、移住希望者と人材確保を希望する観光関連事業者とのマッチングを実施しました。

（2）伊勢志摩サミット開催等の好機を生かした誘客戦略

- ・Inaka Tourism 推進協議会の取組による星空観測のアクティビティ造成など、三重ならではの夜間等も楽しめるアクティビティ造成を支援しました。
- ・大都市圏等からの誘客を促進するため、交通事業者との連携によるプロモーションや県内各地への周遊促進等の取組を展開し、特に本県への宿泊率の高い関西圏からの宿泊促進に取り組みました。
- ・ホームページ「観光三重」において、サイト閲覧者に適した表示や案内を行うことができるツールなどの導入や宿泊施設の魅力を発信する記事レポートの掲載等を通じ、県内の魅力発信に取り組みました。（ページビュー総数：18,043,509件、訪問者数8,686,319人）
- ・「日本ゴルフツーリズムコンベンション2018」を日本国内で初めて開催(10月)し、商談会やセミナー、県内ゴルフ場や観光地の視察等を通じてゴルフ旅行の目的地としての県の魅力をPRし、知名度向上を図りました。
- ・4月に設立した三重県クルーズ振興連携協議会として、外国客船の誘致や受入環境整備に取り組みました。
- ・11月のタイ知事ミッションでは、中部国際空港等と連携し、現地航空会社へのトップセールスや観光セミナー等を通じ本県の観光の魅力をPRしました。これまでの取組の結

果、平成 30 年のタイからの延べ宿泊者数は、前年比約 2.2 倍と大幅に増加しました。

- ・海外での忍者 P R や誘客を図るため、伊賀流忍者特殊軍団阿修羅を「みえの国観光大使」として任命しました。
- ・三重の観光ブランディングを高め、増加する個人の外国人旅行者（F I T）の誘客を図るため、キャッチフレーズ「Mie, Once in Your Lifetime（一生に一度は訪れたい三重県）」とロゴマークを設定するとともに、SNS を活用した「#VISITMIE キャンペーン」を実施し（期間中のインスタグラムでの投稿件数：約 15,500 件）、県観光情報の拡散や認知度向上に取り組みました。
- ・日台観光サミットの三重県での開催から 5 周年となることを機に、三重県と台湾の関係を強化するとともに、急速に F I T 化が進む動向に対応するため、現地の有力媒体や三重県 P R アンバサダー等を活用した F I T 誘客キャンペーンを展開しました。
- ・M I C E の誘致については、参加者数が 4,600 人と県内最大となった「第 9 回日本プライマリ・ケア連合学会学術大会」や、サミット後、志摩市では初となる政府系の国際会議「第 16 回日 ASEAN 次官級交通政策会合」など、平成 30 年の国際会議開催件数は目標値 5 件を上回る 16 件となりました。

（3）利便性・快適性にすぐれた人にやさしい観光の基盤づくり

- ・平成 31 年 3 月に新名神高速道路の県内区間の全線および東海環状自動車道の東員 I C から大安 I C までの 6.4 k m が開通するとともに、紀宝熊野道路の新規事業化が決定しました。また、平成 30 年 4 月の臨港道路霞 4 号幹線（四日市・いなばポートライン）、8 月の「湯の山かもしか大橋」供用開始等により県内道路ネットワークの利便性が向上しました。
- ・県内宿泊施設等のバリアフリー・インバウンド対応状況調査（10 施設）を実施し、宿泊施設等のバリアフリー意識を高めるとともに、調査結果のホームページ掲載や施設管理者へのアドバイスを通じて、自主的な施設・設備等の改善につなげました。
- ・近鉄阿倉川駅、近鉄桜駅、近鉄五十鈴川駅の駅舎のバリアフリー化を支援しました。
- ・全国各地で頻発した大規模自然災害の経験も踏まえ、観光客の安全確保を図るため、関係団体等と連携し、観光地における防災対策に取り組みました。（取組事例の共有の場：1 回、研修・セミナー：4 回、訓練：3 回）
- ・不特定多数が利用する大規模建築物のうち、災害時に避難所として活用される建築物（ホテル、旅館等）の耐震化を促進するために、これらの建築物に対する耐震改修の支援を行いました。
- ・日本政府観光局のホームページに掲載されている訪日外国人受入可能な医療機関リストへの登録について県内医療機関に働きかけ、101 の医療機関が登録されました。
- ・あらゆる機会を通じて、宿泊事業者等の施設管理者に対し、暴力団排除条項の導入を働きかけました。